

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>【申請書に記載された「上位目標」】</p> <p>対象地域にて、コミュニティ・ベースの母子保健サービスを強化することにより、妊産婦、5歳未満の乳幼児の健康状態が改善される。</p>
(2) 事業内容	<p>当該事業では、妊産婦・乳幼児の健康増進につながる知識・行動・態度を啓発し、保健サービスの質およびアクセスを改善できるよう、働きかけていく。第三年次は、第二年次に活動を開始した村（計265村）での定期的なモニタリングおよび保健ボランティアへの再研修などのフォローアップを実施するとともに、地域の保健サービスの拠点となるサブ・ルーラル・ヘルス・センター（SRHC）の建設を支援する（第二年次の建設とは別の村）。また、事業最終年次であるため、第一年次および第二年次の全対象村にてエンドライン調査を実施し、ベースライン調査結果と比較することにより事業の効果を測定する。さらに、事業完了後の持続性を高めるために、出口戦略ワークショップを実施して助産師とコミュニティの協働体制のオーナーシップを促進する。</p> <p>第三年次上半期においては、職員の能力強化、エンドライン調査（第一年次に活動を開始した村が対象）、タウンシップ医療従事者の継続学習の支援、サブ・ルーラル・ヘルス・センター（SRHC）建設支援、助産師との月次指導ミーティングなどを主に行い、事業行程表に従って順次活動を実施している。尚、第一年次に活動を開始した対象村への支援は、出口戦略ワークショップの終了をもって、すべて完了した。以後、申請書に明記した事業内容に沿って、進捗を述べる。</p> <p>事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 12名のプロジェクトオフィサーおよび12名のプロジェクトアシスタントに対して、リプロダクティブ・ヘルス（RH）やコミュニティ・ケース・マネジメント（CCM）に関する再研修を行々とともに、出口戦略ワークショップおよびエンドライン調査の手法に関する研修を行った（5月）。 ✓ 第1期開始村（300村）において、2,928名を対象にエンドライン調査を実施した（5月、6月）。第2期開始村（264村）においては、12月にエンドライン調査が実施される予定である。 ✓ プロジェクトマネジャーおよびプログラムアドバイザーが、各地域事務所にて、当該事業の運営および技術的な知識に関する指導を行った（3月、6月）。 ✓ カウンターパート（ミャンマー保健省）との調整会議を行い、事業の進捗状況を共有し、実施における技術的な課題・懸念に関して協議を行った。今後も事業対象地における円滑な事業継続のための協力・支援を確認した。（5月、6月） <p>1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 第1期、第2期の全対象村564村において、弊団体からの最小

限のサポートの下、育成された保健ボランティアが中心となって保健知識の啓発セッションが継続実施され、2014年3月から7月の間、延べ63,467名の地域住民が参加した。(平均40名/セッション)

- ✓ 視覚教材を用いて小児感染症の危険徴候について学ぶ啓発セッションは、第1期、第2期対象村のうち280村にて各1回実施され、9,288名が参加した。
- ✓ 第1期、第2期の対象村における754名の産婦のうち、662名がRHボランティアによる計4回の産前訪問を受けた(第1期開始村:319名(90.4%)、第2期開始村:343名(85.5%))。同じく第1期、第2期の対象村において、688名の産婦が計2回の産後訪問を受けた(第1期開始村:326名(92.4%)、第2期開始村:362名(90.3%))。
- ✓ 第1期、第2期の対象村において、635名の妊婦が鉄・葉酸剤(180錠以上)を摂取し(第1期開始村:307名(87.0%)、第2期開始村:328名(81.8%))、656名の妊婦が破傷風ワクチン(2回)を接種した(第1期開始村:326名(92.4%)、第2期開始村:330名(82.3%))。
- ✓ 第1期、第2期の対象村において、404名の産婦が医療従事者による分娩介助で出産し(第1期開始村:199名(56.4%)、第2期開始村:205名(51.1%))、216名の産婦が保健施設にて出産した(第1期開始村:118名(33.4%)、第2期開始村:98名(24.4%))。

2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供

- ✓ 第1期、第2期の対象村において、咳・発熱を呈した1,096名の5歳未満の子ども(第1期開始村:509名、第2期開始村:587名)、下痢症の1,508名の5歳未満の子ども(第1期開始村:793名、第2期開始村:715名)がCCMPによる応急処置を受けた。そのうち、重篤な肺炎および下痢症の疑いのある35名の子ども(第1期開始村:17名、第2期開始村:18名)が助産師へ照会された。
- ✓ 6つのタウンシップで、第2年次に育成したCCMプロバイダー(CCMP)を対象としたケース・マネジメントに関する強化研修を8月から9月にかけて実施する予定である。同じく、第2年次に育成した526名のRHボランティアを対象とした妊産婦ケアおよび新生児ケアに関する強化研修も実施予定である。

3. 医療専門家との連携による保健システムの強化

- ✓ 現地保健当局と連携の上、タウンシップ基礎医療従事者の継続学習を支援し、これまでに328名がセッションに参加した(3月から7月)。
- ✓ サブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設(各タウンシップ1か所、計3か所)が保健省から承認された。現地建設業者を選定し、施工契約を締結後、工事が開始された(5月)。クンジャ

	<p>ンゴン・タウンシップでの建設に関しては、建設対象村の変更に伴って遅延が生じたものの、9月に工事開始の予定で進めている。</p> <p>4. コミュニティでのケアの質の向上と定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 第1期、第2期の対象村において、それぞれ月1回の月次指導ミーティングを実施した。各助産師が、管轄する村の両保健ボランティア（第1期開始村：753人、第2期開始村1,123人）の活動内容を確認し、適宜助言・指導を行った。ミーティングを通して連携を強化し、活動の質の向上とともに保健活動の定着を図った。 ✓ 第1期開始村（300村）において、事業終了後も地域の保健活動が継続されるよう、村の保健栄養チームの組織能力を向上させる出口戦略ワークショップを実施し、村の保健栄養チーム1,557名（合計）が参加した。第2期開始村（264村）においても、15年1月に出口戦略ワークショップが実施される予定である。
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>本事業は、第一年次・第二年次の活動開始村においてそれぞれ実施したベースライン調査の結果と、第3年次に上半期・下半期に分けて実施するエンドライン調査の結果を比較し成果を測る。事業実施中に確認しているモニタリング指標では、第1期開始村および第2期開始村において、以下のような好ましい傾向が報告されている。</p> <p>【第1期開始村】</p> <p>上半期においてエンドライン調査および出口戦略ワークショップを行い、当該事業の全活動が完了した。事業による支援完了後も、育成されたボランティアが、助産師との連携のもとに保健活動を継続しており、事業で取り組んだ仕組みが持続していることが確認されている。それに応えるように、妊産婦による保健サービスの利用も促進されている。具体的には、以下のような顕著な傾向が認められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ RHボランティアによる4回の産前訪問を受けた産婦の割合が、第1年次の47.7%から、第2年次に82.3%、第3年次には90.4%へと上昇した。 ➤ 妊娠期の鉄・葉酸剤の推奨量摂取率は、第1年次で47.5%だったが、第2年次に71.0%、第3年次には87.0%へと上昇した。 ➤ 妊娠期の破傷風ワクチン（2回）接種率は、第1年次の82.1%から、第2年次に91.7%、第3年次には92.4%へと上昇した。 ➤ RHボランティアによる2回の産後訪問を受けた産婦の割合が、第1年次の52.3%から、第2年次に76.9%、第3年次には92.4%へと上昇した。 ➤ 医療従事者による分娩介助率は、第1年次の46.7%から、第2年次に53.3%、第3年次には56.4%へと上昇した。 ➤ 施設分娩率は、第1年次の22.1%から、第2年次に19.8%へと若干減少したものの、第3年次には33.4%へと上昇に転じた。 <p>【第2期開始村】</p>

	<p>弊団体からの関与は最小限のサポートとモニタリングに留めているが、育成されたボランティアと助産師が連携しながら継続的に活動を行い、保健サービスの利用も着実に促進されている。</p> <p>第2期との数値が比較可能であるクンジャンゴンとテゴン・タウンシップ（マグウェイ地域の4タウンシップ（ソー、ミンドン、ンガペ、セドタラ）に先立って保健活動を開始）のモニタリング指標では、以下の通り、活動成果の維持・促進を示す傾向が確認されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ RH ボランティアによる4回の産前訪問を受けた産婦の割合が、第2年次の95.8%から、第3年次上半期に98.1%へと上昇している。 ➤ 妊娠期の鉄・葉酸剤の推奨量摂取率は、第2年次の92.7%から、第3年次上半期に97.4%へと増加している。 ➤ 妊娠期の破傷風ワクチン（2回）接種率は、第2年次の95.8%から、第3年次上半期に99.4%へと上昇している。 ➤ RH ボランティアによる2回の産後訪問を受けた産婦の割合が、第2年次の97.6%から、第3年次上半期に99.4%へと上昇している。 ➤ 医療従事者による分娩介助率は、第2年次の79.5%から、第3年次上半期に65.4%へと減少している。 ➤ 施設分娩率は、第2年次の27.1%から、第3年次上半期に27.6%へと上昇している。 <p>※医療従事者による分娩介助率の減少は、季節的な影響（雨季）による可能性が高い。</p>
<p>（4）今後の見通し</p>	<p>事業はほぼ計画どおりに進捗している。クンジャンゴン・タウンシップのSRHC建設において、建設対象村の変更に伴って遅れが生じたものの、建設工事は事業期間中に終了する見込みである。</p>